



## 警告のニューズレター「角笛」

発行日：2017年4月発行（第84号）

発行：警告の角笛出版

価格：フリーペーパー

角笛 HP: <http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

### 【目次】

◎巻頭メッセージ：「神は艱難前携挙主義者の預言を外す」 エレミヤ

◎時代を悟る：「ハリウッドの影響力」 H.F

◎お知らせコーナー 「本の紹介」

### [巻頭メッセージ]

#### 「神は艱難前携挙主義者の預言を外す」 by エレミヤ

テキスト：イザヤ44:25 わたしは自慢する者らのしるしを破り、占い師を狂わせ、知恵ある者を退けて、その知識を愚かにする。

（霊的なしるしを破り、人の心からの預言を破り、賢いものを退け、彼らの助言を愚かにするものは誰か？：70人訳）

本日は「神は艱難前携挙主義者の預言を外す」という題でメッセージをしたいと思いません。本日見ていきたい内容は以下です。

1 艱難前携挙主義者たちは過去いくつもの終末に関する預言を行ってきた。しかし、これらの預言はことごとく外れてきた。

2. 上記イザヤ書のみことばによるならば、この預言が外れたことは偶然に起きたことでなく、神の前に必然であり、神が意図的に彼らの預言を外したのである。彼らの預言を外すことにより、神はこの教え、艱難前携挙説が神から出た教えでなく、人の思いや惑わしの霊由来のものであることを明白に語っている。

上記2点を見ていきたいと思うのです。

＜神以外の霊からの預言は外れ、人の考えによる預言は外れる＞

上記テキストを見て行きましょう。そしてこのことばから、神が艱難前主義者たちに対して持っておられる思いを見ていきたいと思うのです。

テキストに沿って見ていきます。

「霊的なしるしを破り、人の心からの預言を破り」

神はここで、たとえある人が未来に関して預言したとしてもそれが神の霊からのものでなく、人の心で考え出した教理や預言なら、その預言は外れることを語ります。

今まで多くのクリスチャンがキリストの再臨や、携挙に関して預言し、そして外れています。アメリカのウイリアム・ミラーがキリストの再臨を1844年だと予言したことは有名です。

## 「神は艱難前携挙主義者の預言を外す」 by エレミヤ

彼の預言を信じた多くの人が白い衣を身にまとい、主の再臨を待っていたのですが、その再臨は勿論実現しませんでした。彼の預言は何故外れたのか？それは上記みことばによるなら、神からのものでなく、人の思いや心から考え出した預言に過ぎないからです。

### 「賢いものを退け、彼らの助言を愚かにする」

終末に関してあらゆる神学者があらゆるもつとらしい教理を語ります。聖書に基づきいかにも知恵あるような説明をするのです。たとえば艱難前携挙説のもととなるデイスペンセーション主義です。この教えは、7つの時代区分を語り、異邦人の時代が終われば、イスラエルの時代に入ると説きます。これは、一見するといかにも知恵あるものの助言、教えに見えます。

しかし、このデイスペンセーション主義を真に受けたハル・リンゼイの預言は、外れました。彼はイスラエル建国（1984年）から1世代（40年）の間にキリストの再臨があるととして1988年キリスト再臨説を打ち出したのですが、そのことばは成就しませんでした。

それで、リンゼイの教えやデイスペンセーション主義は結果として愚かな助言、迷言、妄言となってしまいました。このことを通して確かに神のこの教えに対する、思い、判断を理解できます。

明らかに神はデイスペンセーション主義やら、艱難前主義者たちの教理を憎んでおり、彼らを惑わし、彼らの鼻をあかし、彼らの預言を外すよう導かれたことを知るのです。

デイスペンセーション主義者、艱難前携挙主義者であるハル・リンゼイは、1970年代に3000万部を超えるベストセラー「今は亡き大いなる地球」（The Late Great Planet Earth）の本などを通して盛んに終末の時代に関することがらを語り、預言をしました。し

かし、それらの預言はみなことごとく外れています。

たとえば、彼は当時の共産国ソ連が反キリストの国となると語りましたが、そのあと、ソ連は崩壊して今では国として存在していません。この預言は全くの的外れな預言になってしまいました。

また、彼はヨーロッパのEUが黙示録の7つの頭と10本の角を持つ獣の国となると預言しました。その当時は、EUは9カ国ほどの数で預言は数的には信憑性が合ったのですが、今はどうでしょう。現在、EUの数は27カ国を超えているので、数的に全く合いません。それどころか、今ではイギリスを始めEUを脱退する国も出つつあるので、今後EUが崩壊する可能性さえあります。どうもこの預言も外れそうです。

### <艱難前携挙説は広がっている>

改めてこの艱難前携挙説について考えて見ましょう。今の多くの教会は艱難前携挙説を受入れています。多くの教会でこの教えが語られ、神学校で語られる終末の教理もこの教え一色です。さらにこの教えにはマスメディアの後押しもあります。

1970年代に3000万部を売りベストセラーとなったハル・リンゼイの「今は亡き大いなる地球」はまさに艱難前携挙説を大いにキリスト教会に広めました。日本でも高木慶太という人が彼に触発されたのか、似たような内容の本を書いています。さらに近年には艱難前の教理に立つ「レフト・ビハインド」の本がシリーズで発行され、こちらは6000万部を超えるベストセラーとなっています。このようにこの教えは大きくマスメディアにより広げられ、キリスト教会に浸透しているのです。このように、この教えが有名であり浸透していることは事実です。しかし、たくさんの人が受入れているから、有名な教えだから、それだから、真に神から

## 「神は艱難前携挙主義者の預言を外す」 by エレミヤ

来た教えであるかどうかということは別です。圧倒的な多数の人々が信じている教えであるが、実はそれが惑わしの霊から来ているものである、ということは聖書的にありえるのです。以下の聖書箇所を見てください。

1列 22:6 そこで、イスラエルの王は約四百人の預言者を召し集めて、彼らに尋ねた。「私はラモテ・ギルアデに戦いに行くべきだろうか。それとも、やめるべきだろうか。」彼らは答えた。「上って行きなさい。そうすれば、主は王の手にこれを渡されます。」

22:19 すると、ミカヤは言った。「それゆえ主のことばを聞きなさい。私は主が御座にすわり、天の万軍がその右左に立っているのを見ました。

22:20 そのとき、主は仰せられました。『だれか、アハブを惑わして、攻め上らせ、ラモテ・ギルアデで倒れさせる者はいないか。』すると、あれこれと答えがありました。

22:21 それからひとりの霊が進み出て、主の前に立ち、『この私が彼を惑わします。』と言いますと、主が彼に『どういうふうにするのか。』と尋ねられました。

22:22 彼は答えました。『私が出て行き、彼のすべての預言者の口で偽りを言う霊となります。』すると、『あなたはきっと惑わすことができよう。出て行って、そのとおりにせよ。』と仰せられました。

22:23 今、ご覧のとおり、主はここにいるあなたのすべての預言者の口に偽りを言う霊を授けられました。主はあなたに下るわざわいを告げられたのです。」

ここに書かれているように、神からの正しい預言は一人の人、ミカヤに下りました。それ以外の預言者たち、耳ざわりの良い預言をした400人はみな、惑わしの霊に惑わされ

て預言していたのです。結果、これらの耳ざわりの良い声に聞き従い、戦かいに出て行ったイスラエルの王はその戦いで命を失いました。

このパターンは今でも起こりえます。クリスチャンは艱難に会わないとする艱難前携挙説は確かにクリスチャンの耳には聞こえがよく、多くの教師がこれを語ります。しかし、だからといってこの教えが神からのものとは限りません。逆にそれが惑わしの霊からのものなら、この教えに従う人々は、その永遠の命が危なくなるでしょう。

< 艱難前携挙説は吟味するべきである >

艱難前携挙説は教会歴史の中で新しい教えです。それは、19世紀にイギリス、プリマスブラザレンのJ.N. ダービーによりもたらされたものです。キリストの時代のペテロもパウロもまた初代教会の教父たち、さらにルターもウエスレーもこのような艱難の前に携挙される教理のことなど少しも述べていません。もし、この教えが本当に聖書由来のものであり、正しい教えなら、何故クリスチャンは長い教会時代の歴史の中でその教えに気付かなかったのでしょうか？何故19世紀になって突然ダービーが発見したのでしょうか？非常に不思議なことがらです。



19世紀にダービーにより「発明」された艱難前携挙説

## 「神は艱難前携挙主義者の預言を外す」 by エレミヤ

このようにこの教えはクリスチャンがそのまま受入れるには危険な新しい教えであり、そして聖書はどのような教えをも吟味すべきであると語っていることを知しましょう。以下の通りです。

“1テサロニケ5:21 すべてのことを見分けて(テストして: KJV)、ほんとうに良いものを堅く守りなさい。”

聖書はこのようにどんな教えも教理も吟味、テストすることを薦めています。ですのでこの新しい教え、艱難前携挙説に関しても何も考えず無条件に受入れたりせず、まずこの教えが本物かどうか、テストをするべきなのです。そのテストの結果、合格なら私たちは受入れるべきですし、不合格なら私たちは受入れず、拒否するべきなのです。さて、この教えのテスト結果はどのようなものでしょうか？

神はこの教えに関してすでにテスト結果を発表していると私たちは理解しています。そして、その結果は不合格と書かれているようです。何故そういえるのか？何故なら神は明らかにこの教えで語られたどの預言をも意図的に外しており、成就させていません。このことを通して神のこの教えに関する答え、判断を悟ることができます。

### <ハル・リンゼイの外れた預言>

具体的に艱難前携挙説者の預言はどのように外れているのでしょうか？ハル・リンゼイのことを例にしてみましましょう。彼の著書や、言動の中で彼は以下のような預言を語りました。

#### 1 1988年キリスト再臨説：

リンゼイはキリストの再臨は1988年までであると語っています。その教理的根拠はデイスペンセーション主義に基づくものです。

デイスペンセーション主義によれば、異邦

人による教会時代は挿入された一時的なものであり、限られた期間続いて、教会時代はいずれ終わると説きます。いずれ教会時代が終わり、終末の時代は次のデイスペンセーション、すなわち、イスラエル人の時代に戻ると語ります。そして、異邦人の時の終わりのしるしは1948年のイスラエル建国であると語るのです。そして、キリストの再臨はその時から1世代(40年)以内にあるとして彼は1988年キリスト再臨説を語りました。この預言の結果はどうかというと、結果は、勿論外れています。そしてこのように彼の預言を外すことにより、神はこの教えが神由来のものでなく、ただ人の知恵に基づいたものであることを語っておられます。

#### 2 ソ連反キリスト国説：

リンゼイは前述の「今は亡き大なる地球」の中で、ソ連が反キリストの国になると語っています。しかし、ソ連はその後、崩壊し今は国として存在しません。この彼の預言も全く外れてしまいました。

#### 3 ハルマゲドンの戦い：

リンゼイは彼の著書「ハルマゲドンへのカウントダウン」(Countdown to Armageddon)の中で、1980年代には、ハルマゲドンか艱難時代が起きると語っていますが、これは実現していません。

#### 4 EU獣の国説：

リンゼイは前述の「今は亡き大なる地球」の中でEUは黙示録に書かれた10本の角と7つの頭を持つ獣の国になると語りました。彼が語ったその頃はEUは9つほどの国であり、10本の角となることばにも何か信憑性がありそうでした。しかし、今ではEUは27カ国以上存在しており、ぜんぜん数が違います。その上、今ではEUの核となるイギリスがEU脱退を決めており、このままでは、EUが壊滅してしまう可能性もあります。彼のこの預言も外れる可能性が濃厚です。

## 「神は艱難前携挙主義者の預言を外す」 by エレミヤ

以上見ましたように、神は艱難前携挙説主義者の預言をどれもこれも見事に外しており、成就したものを探すが難しいです。そしてこの預言がみごとに外れることを通して見えない神は明らかにこの教えに対する神の意思を語っています。

＜神は生きておられ、人間の考えから出た教理に対して、はっきりとした答えを示す＞

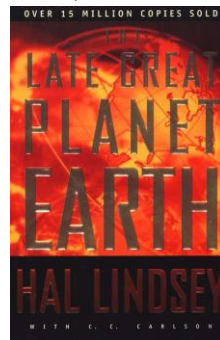
神はこの時代に関して何も語らないのでしょうか？あらゆる教師が終末に関してあらゆる教理を語っていますが、それに関して神は何も反応を示さず、無言で放っておかれるのでしょうか？いいえ決してそんなことはありません。上述のイザヤ書のことばを通して神ご自身は、神以外の霊からのしるしや、人間の考えに過ぎない預言に対して神の意思を示し、判断を示すことを語ります。具体的にはそれらが神以外の霊からきたものであり、人間の考えに過ぎないなら神はその預言を外すことにより、神ご自身の意思を示すのです。神がこれらの預言を成就させず外すことにより、神の意思を示し、それらの預言に関しての神の判断や、態度を明確に示すのです。では、デイスペンセーション主義や、艱難前携挙説に関する神の判断はどのようなものなのでしょうか？それは今まで見てきたように、神は彼らの預言をことごとく外し、彼らの未来に関する助言や、解説を愚かな話とすることにより、神ご自身の判断を示されているのです。いかにも信憑性のありそうな彼らの説や未来への預言を神がことごとく外すことにより全能の神は彼らの教えに対してご自身の態度を明らかにしておられます。これらの教えは明らかに神からのものでなく、別の霊からのものであり、人の考えに過ぎないものなのです。私たちはこれを理解しなければなりません。

＜神のしもべのことばは実現し、成就する＞

しかし、このことと反対に神はそのしもべのことばを成就させ、それは実現することをも語ります。以下のことばの通りです。

イザヤ44:26 わたしは、わたしのしもべのことばを成就させ、わたしの使者たちの計画を成し遂げさせる。

旧約の時代、神はご自分が遣わされた、イザヤやエレミヤら預言者のことばを成就させました。このことは今の時代においても真実なのです。神が真に遣わされたしもべならそのことばは成就するのです。たとえば、私たちは以前アメリカ獣の国説を聞きました。それは初めて聞いた時には、突拍子もない奇想天外の教えに思われましたが、しかし、それが真に神が語られたことばなら、そのことばは時とともに成就します。事実アメリカは以前と比べて年毎に獣の様相を呈しています。アメリカにおいて同性愛のデモに反対するクリスチャンは逮捕され、信仰のゆえに、同性愛者の結婚用のケーキを焼かないケーキ屋には多額の罰金が課せられました。また、この国では路傍伝道を行う説教者が逮捕されたりしています。まさにアメリカ＝獣の国との警告のことばは神により固くされ、成就しつつあるのです。これらの事柄を通して確かに今の時代でも神は生きておられることがわかります。神は人からの預言は外し、逆に神のしもべのことばを成就させ、その警告のことばのとおり、時代が進み、背教は進んでいるのです。是非、全てのことを吟味し、正しい教えに従いましょう。－以上－



「今は亡き大いなる地球」

大国アメリカは、現在、世界に大きな影響を与え続けています。時を悟りなさい、とイエスは言われました。聖書的にアメリカはどのような存在であるかを我々はきちんと見分け、悟らなくてはなりません。アメリカは世界の政治経済に大きな力を及ぼす存在であり、トランプ政権になって、そのことがよりはっきりしました。彼の発言一つで世界中が大きく動かされています。アメリカは世界を揺るがす一大国家なのです。

それはまたエンターテインメントの世界も同様でしょう。映画界においてもアメリカの影響は計り知れません。

アメリカのハリウッドの映画は世界中を席卷しています。映像は非常に印象にのこります。人は、知らず知らずのうちに視覚的、聴覚的な刺激から大きく影響を受けてコントロールされてしまうのです。

莫大な資金力のあるハリウッドの映画は人を魅了し楽しませると同時に世界観、精神世界にも多大な影響を与えています。霊的な影響も多大です。

今年のアカデミー賞は黒人の同性愛者が主人公の「ムーンライト」という映画でした。これによりアメリカのエンターテインメント界は完全に同性愛を受け入れたことを宣言しています。さらに同性愛を肯定していく働きを世界に広げていくでしょう。ハリウッドは同性愛を受け入れることが良いことで、同性愛を受け入れないのは差別論者であるという流れをさらに大きくしていきます。同性愛は御言葉に反する、と言うと差別論者であるようにされてしまうのです。まさにハリウッドは「この世の霊」が働いています。

この世の霊が働いている典型的な例としては、「ハリーポッター」シリーズがあげられます。これにより世界中の人が魔法や魔術に非常に親しみをもちました。この映画は、占い、魔術をしてはならないという聖書の教えから人々を引き離します。こうして人は悪霊

的なものに取り込まれていくのです。

また、近く公開されるSF大作「スターウォーズ」シリーズはその根底に、瞑想などニューエイジ的な背景があります。楽しいエンターテインメントを見ているうちに、反聖書的な世界観が人の中に入り込んでくるのです。

かなり前ですが日本でも話題になったミステリー仕立ての「ダ・ヴィンチ・コード」。これも御子イエスを完全に冒涇している内容で、自然にイエスの神性に疑いを持たせます。

ハリウッドのエンターテインメントは、聖書的ではないこの世の価値観、悪霊的な物を抵抗感のないように、全く自然に入れ込んでくるのです。大ヒットした有名な作品をほんの少し挙げてみても、霊的にイエスの正しい福音から引き離すような働きがあることがわかります。注意深く見さえすれば、あらゆるハリウッド映画の中に「この世の霊」が働いていることがわかるでしょう。

ハリウッドではキリスト教を題材にした映画も作られています。これらは大丈夫といっておよいのでしょうか？「ライオンと魔女」のナルニアシリーズも、何作かハリウッドで映画化され有名です。

しかしこれもまた、魔法や妖精、グロテスクな妖怪などが登場し、子どもたちに対して異教的な物やオカルトの入り口になる罠が仕掛けられています。

また、近く公開予定の「シャック」という映画があります。これはアメリカのベストセラーを映画化したもので日本の女優が出演し、話題になっています。登場人物が、父なる神と聖霊とイエスが人間で表現され、父なる神のイメージが黒人女性であり、さらに三位一体の神を否定しています。

いたるところで異端的な教えが入り込んでいるとアメリカの聖書の言葉に忠実なクリスチャンは警告しています。

同様に日本でも公開されている「沈黙・サイレンス」があります。「沈黙」はカトリック信徒の遠藤周作の原作で、日本が舞台の棄教したカトリック神父が主人公です。この映画に対して日本の教会では好意的にとらえる傾向があるようですが、アメリカの聖書に忠実なクリスチャンは警鐘を鳴らしています。棄教した主人公はイエスズ会のカトリック神父で、その信仰はカトリックの神学が土台であり、聖書的な信仰とは全くかけ離れています。また、カトリックの祈りの「瞑想的祈り」は、ヒンズー教、仏教などの異教的なものとの混合されています。そのため聖霊によるのではない、違う霊、悪霊の働きが入り込んでくるのです。

第二コリント11：14には「サタンさえ光の御使いに変装するのです。」とあります。神からの語りかけと思っただけのものが、じつは悪魔からのもの、という恐ろしい罠があるのです。この霊的な罠はカトリックに限った事ではなくプロテスタントに対しても働いています。

誰だって怖い痛い体験などしたくありません。この映画で表現されている「背教しても許してくれる神様」のイメージはとても都合がいいのです。悪魔はそういう人の本音の部分に入り込んできます。

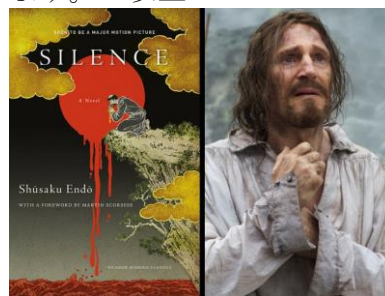
第一ヨハネ4：1～3「霊だからといって、みな信じてはいけません。それらの霊が神からのものかどうかを、ためしなさい。なぜなら、偽預言がたくさん世に出て来たからです。人となって来た、イエス・キリストを告白する霊はみな神からのものです。それによって神からの霊をしりなさい。イエスを告白しない霊は、どれ一つとして神から出たものでは

ありません。それは反キリストの霊です。」とあります。

イエスを告白する霊は神からのであり、イエスを告白しない霊は神から出ていないとあります。とするならば、棄教を勧めてくるものは神からのものではないことがはっきりします。「沈黙・サイレンス」の中には信徒たちを惑わしていく危険な罠、異なった福音が入り込んでいるのです。これらのキリスト教的ハリウッド映画は、聖書の言葉、神ご自身の言葉をないがしろにしています。そして人間の考えを中心の勝手な神のイメージを作り出し、自分たちで都合のいい神を造りだしています。人々に神の戒めを忘れさせ、御言葉を違うものにすり代えて、自分の好きな空想話を作り上げていきます。

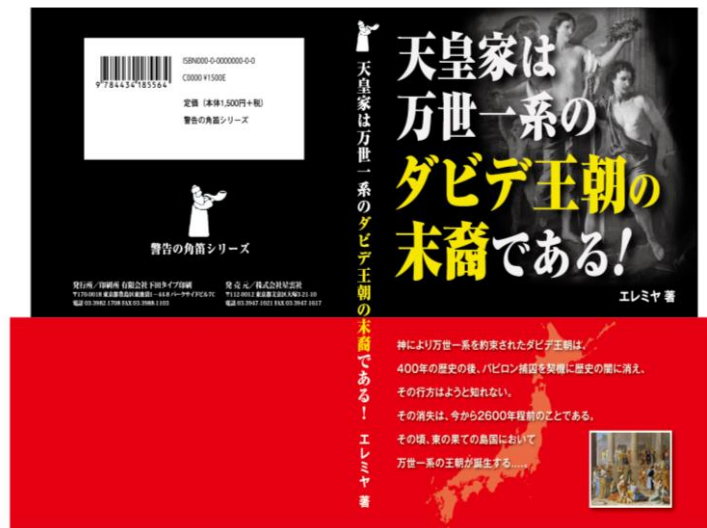
第二テモテ3～4「というのは、人々が、健全な教えに耳を貸そうとせず、自分につごうの良いことを言うてもらうために、気ままな願いをもって、次々に教師たちを自分たちのために寄せ集め、真理から目をそむけ、空想話にそれて行くような時代になるからです。」

たとえ表面的にキリスト教的な要素があったり、原作がベストセラーであったりとしても、よくよくその内容を御言葉と御霊によって吟味しなければ、惑わされるのです。我々は、目を覚ましていなくてはならない時代にいます。—以上—



「沈黙・サイレンス」

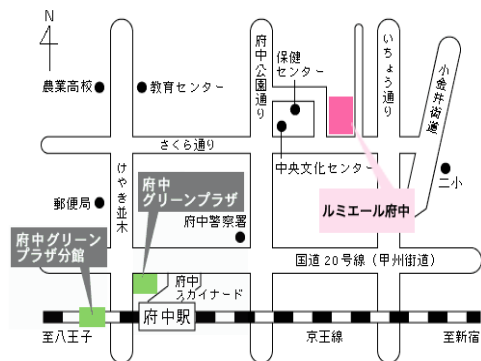
●エレミヤの新刊「天皇家は万世一系のダビデ王朝の末裔である！」



定価:¥1,500+消費税 ※注文を御希望の方は、以下へご連絡下さい。  
 警告の角笛出版 tel:042-364-2327 fax:020-4623-5255  
 mail:truth216@nifty.com

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日 午前 10:30-12:30  
 午後 14:00-16:00  
 場所:東京都京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館  
 (tel:042-360-3311)  
 1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、  
 「レムナントキリスト教会」の部屋をご確認ください。  
 どなたでも来会歓迎、入場無料です。



礼拝場所のURL: [http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map\\_02.html](http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map_02.html)

★教会のHPもあります。  
 ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。  
 尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

★クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

★クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風

<http://whattopics.at.webry.info/>

★クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

★ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家

<http://87494333.at.webry.info/>